

## 小学校統合プラン説明会会議録

と き 平成23年7月25日午後7時30分～午後9時20分

ところ 古布庄地区公民館

出席者 地区民男性36人、女性15人 計51名

石前委員長・高塚委員・進委員・前畑委員・永田教育長・生田課長・藤村課長  
浅田補佐・谷本補佐・高力係長・谷岡

**開会** 生田課長

**あいさつ** 石前委員長

**統合プラン説明** 永田教育長

資料により説明させていただき、皆様とともにこの問題を考えていきたいと思う。  
別紙資料により説明。

財政推計について生田課長説明

### 質問・意見交換

○古布庄小学校校区の杉地、法万が東伯小学校となっている。そのあたりの経緯を知りたい。統合すると地区の運動会はどうなるのか。

100円バスの通学でも良いが、ワンマンバスなので安全な通学と言うことで補助員の配置などの配慮をお願いしたい。

● 経緯は良く分からない。後からまた調べておく。

100円バスの問題は、準備委員会等の色々な意見を聞いたうえで検討したい。

● 地区の運動会は現在のままでいく。

○ 人口が減らない対策を、町としては考えなければならないと思うが、当然のように減っていく事を前提とした発想というのはどうか。

この統合案は、財政面ということなのか。それとも子供のためという事なのか。財政負担をすれば複式を解消する方法はあるわけで、そこを聞きたい。

地域から学校がなくなり、自分の地域の中から子どもたちの声が消えるということは、これは大きな事だと思うし、ここに住んでいる住民に対しても配慮をお願いしたい。

極端にいうと統合は必要だと思う。ならば、答申で出ている平成32年中学校区1校に一気にしたほうが良いと考えている。

●財政面なのかということだが、教育委員会は、子どもたちがある程度の集団の中で育つことが大事でないかと考えた。本当にこれから数人の学級がずっと続いていくことがどうなのか、これから5年後10年後の姿を見ながら、今教育に携わっているお互いが何をしておかなければいけないのか。そんな思いでプランを提案している。

小学校は永年地域のコミュニティとして、文化の中心としてあった。学校が消えて無くなるということは本当に断腸の思いだと思う。琴浦には地区公民館がそれぞれの地区にある。このあたりを活かしながら、今度は地域の拠点としてどう有るべきか、公民館の中では話し合っているところである。

○ 子どもたちの切磋琢磨する場は、否応無しに中学に行けばあるわけで、それを12歳までに絶対

しなければいけないかというはまだ小学校時代は必要ないと思う。少ない人数で、いろんな面で手厚くしてもらった方が良い、また学力の面でもそうである。中学生から切磋琢磨しても遅くないと思う。

○ 山間の過小規模といわれる学校が、どんなに素晴らしいかという、まず、教師として一人一人に目が行き届き、それを支える保護者の皆さんがいた。本当で無くしてしまっても良いのか、本当はそこに住む住民が決めることではないのか。住民・保護者の方、それから子どもたちが話し合っ、本当に必要になったとき、東伯小学校に統合しようという話になるのが本当ではないか。

交付税が22年度1億2千8百万円。26年度を計算されると9千3百万円だったそうです。学校の経費はそれで賄えるのではないか。収入のところを教えてください。

● 交付税の算定は、学校数、学級数、児童数で算定され、統合になると、学校数、学級数の部分が少なくなると推計している。

○ 琴浦町の学校は耐震改修など全て終わっている。今の施設を有効に使って、出来るだけ地域の学校を残しながらやって行こうというのも一つの考え方だと思う。交付税を学校数、学級数、児童数で算定し、これらを総合していくと基準財政需要額ということになる。これが交付税算定の基で、その基準財政需要額に自主財源がいくら有るかという事で交付税の額が決まる。大体68%くらいが交付税算入の基準になる。だから古布庄小学校が無くなって東伯小学校に行くと、古布庄小学校が有るための交付税が減る。それから古布庄小学校のクラスが6クラス有るための交付税が減る。そういう形で学校を合併すると財源を失うことになる。古布庄小学校を減らして、学校一つ当たり、6クラス分の交付税を返上して、そういうことも含めて支出の方も増えたり、減ったりするものを総合的に見て財政というのは考えてほしいと思う。

○ 杉地、法万のことを話したのは、杉地、法万の方と協議して古布庄小学校の方に帰ってこられたらどうかと以前から考えていた。そうすれば児童数も少しは確保でき、統合しなくてもいい方法と思った。もし少人数だから弊害がということであれば、交流ということもある。昔の分校も分校同士の交流とか本校との交流とかやってきたので、東伯小学校との統合の目標があるのならば、お互いの学校が交流の機会をどんどん増やしていく。そして少人数の弊害があればそこで切磋琢磨する場所を何とか工夫をして交流していくことも考えられる。

● 交流は今までもやってきている。たとえば船上山少年自然の家で5年生の集団宿泊、修学旅行に一緒に行くとか、いろいろ交流をやっているが、つかの間の触れ合いである。言われるとおりの効果はあると思うが、今、各学校ではこうした問題が顕在化しないように本当に努力している。子供が少なくなるということは物理的な問題で、そのあたりは本当にどうかということです。

○ 交流というのは東伯中学校区全体でなく、将来の統合を見通した東伯と古布庄の地域の住民も含めた日常的な交流である。そういうことを重ねていって、統合しようという話が住民や保護者から要望としてでたら、それが一番理想的な統合であると思う。

● いざ統合という方向になれば、当然そこには子どもたちにとっても、保護者にとってもいろんな不安があるかと思うので、統合するまでにはPTAの交流や子供どうしの交流などもより必要になってくる。

○ 不安って言うよりも、結局、古布庄地区の活性化の問題である。学校が無くなれば、地域の火が消えたようになる、地域がどれだけ過疎化するか、そういう心配がある。

○ 26年の統合は決定というわけではないのか。たとえば地域の保護者の皆さんが、仮に反対したら統合はなくなるのか。それとも絶対統合なのか。要は、今日の会が、説明をしたというパフォーマンス

ンスだけという意味になってしまわないか。その辺を確認したい。

●今日は地域、保護者全体に説明させてもらった。これが終わったら、各小学校単位に、小・保育園の保護者の皆さん等を対象にした説明会を開催し、皆さんの意見を聞きながら詰めていきたい。26年度決定事項かということだが、教育委員会としては、皆さんの理解を得ながらやって行きたい。

本当に子供たちが少なくなって、確かに地域は寂しくなってくる。一方では未来を担う子どもたちのためにどんな環境を作ってやるのがいいのか。それも5年後、10年後を見据えながらさっき言ったような推移の中から、本当に子どもたちはどうなっていくのか、何をしておかなければいけないのか、このような思いで、小学校の統合プランとして皆さんに投げかけさせてもらった。

○ 統合が良いのか、悪いのかよく分からない。始めに教育長が説明した平成47年には児童数が半減するという事は、集落や地域がなくなる可能性がある。教育長にこれを話してもどうかと思うが、たとえば町長、今日、議員さんも来ているが、そういう方は、この数字を見て何も考えられんのでしょうか。議員さんなり、町の方で考えていると思うが、そのこと事体、黙っているということに行政としてはいかがなものかと思う。

●行政として議会として手をこまねいていたかということ、決してそうでないと思う。色んな少子化、定住化対策は打ってきた。ただ、そう言うほどには人は増えない。

この資料は鳥取県の統合問題の状況で、あるところから質問が出たので調査したものである。

——他市町の統合の実態、検討状況を説明——

他市町も少子化が問題で学校統合に取り組んでいる状況を説明

○ 地域の中で産業が発展して、働く場所があって、生業が成り立つにはどうしたらいいのかということは、やはりグローバルゼーションの中にあって産業構造や経済がどういうふうなかたちで動いているかということが大きく関わってくると思う。議員の一人として、たとえば住宅リフォーム助成を提案して、それを実現することが出来た。大体2千万くらいの補助金で、経済効果は25倍というかたちである。議員として地域の発展のために何が出来るのか。今後とも皆さんの色々なアイデア、提案等を町政に反映させたい。

○ 最終的に、色々、皆さんの方から意見をどのように反映されるか、今後どういう機会が有るのか。合わせて今、古布庄では地域の将来の問題もあった。

統合ということは全体として少子化の中で子どもが減ってきているので、致し方ない部分も有ろうかと思う。しかし、将来に向けてやるなら、経済的な問題なり、あるいは全体的な空気の中、あるいは社会の動向をふまえて長期的な検討をされ、段階的な統合よりも一気に中学校区1校の統合へ向けて具体的な検討というものもありはしないか。準備委員会は、統合に向けて具体的な対応を考えていくのであれば、住民の声というのはどこで聞くのか。

● 各委員会、審議会からの提言などのいろんな流れ、あるいは小学校適正規模・配置審議会の答申、それを基にして教育委員会としてプランをまとめた。それは26年度には3小学校の規模がどんどん小さくなるため、今の学校を活用し、ある程度の集団をつくるということで統合を考えている。今度は32年度に中学校区1校ずつにすると、新しい学校が必要ということになると思う。そうしたときに、そういうことに理解が得られるかということがあると思う。

どのようにして意見を吸い上げていくかということであるが、今回もらった意見や各小学校説明会での保護者の意見を聞きながら煮詰めていきたい。

準備委員会は、一応それを進めるとしたら、こういう考えで教育委員会としては進めたいというこ

とである。

○統合ということは、いずれ来るなということを感じていた。何年か前に、古布庄小学校の子どもが東伯中学校に上がる時、不登校生徒が起きたということを知った。やはり少人数から大きな集団に入るとうまくいかないのかと思った。そして児童数が減っていくということは色々と問題がある。

村が寂れていき、いわゆる留守の家が増える。古布庄地区には職場が無いので、古布庄地区外に出て行く。農業はやっているけど農業じゃなりたない。保育園も無くなってしまった。また、小学校が無くなっていったら古布庄地区は寂れていってしまう。この学校は昭和60年建設でした。なんか良い利用方法は無いものかと考える。

○ おそらくこの問題に関して、賛否両論、侃々諤々とした意見が出るだろうと思っていた。

私自身、この統合問題について反対するものではない。

ひとつ気を付けてほしいのは、この4月で古布庄保育園が休園になっている。この経過で行政と住民との間で十分な合意形成が図られていなかったという大きな汚点を残している。そういうことが無いように、十分その辺の説明を尽くし、住民が全員一致でこの結果を受け入れる合意形成を図った上で決定するということが一番大切なことになるのではないと思う。

すでに大栄校区の小学校は早い時期から町内一本でやっている。それなりの経過とか、事情も研究しながら、その当時、どういう問題があったのか、その中で一本化に向かって行けたのか、というようなことも学んでいく必要があると思う。

○ 先ほどから出ているが、要は子どもが減らなければいい。減らないためにはどうするかということ、町の執行部、また議会も考えていかなければいけない。たとえば町営住宅を古布庄地区に作って、そこに若い人がどんどん住めば子どもたちも増える。長野県のある不便な村では、若い人たちがどんどん県外から移住していると、その代わりにきめの細かいサービス、保育料が安いとか、いろんなことをやっている。学校は無くなる、保育園は無くなるではなしに、あえて極端なことを言うと、旧東伯地区に1校つくる場合、古布庄地区に持って行くぐらいのことがあってもいいと思う。

● 有り難うございました。皆様方の多大なるご意見等をお聞かせいただきまして、本当に有り難うございます。今日、私たちは小学校の統合プランということで説明させていただきましたが、先ほど教育長のほうにも有りましたが、もっとお話をしたいということがあれば、どしどし声をかけていただければと思っておりますので今後ともよろしくお願ひします。以上をもちまして統合プラン説明会を終わります。本日はどうも有り難うございました。